



## 環境教育とは

環境問題というと、地球温暖化やオゾン層の破壊など、地球規模の大きな問題が取り上げられがちですが、学校で行う環境教育では、主に、子供たちの目の前にある環境を対象とするため、子供たちの生活や行動に直結します。

各学校において、子供たちが地域の自然環境を知り、その環境を守っていくために何ができるかを考え、実行するというように、それぞれの地域の特徴を踏まえた学習を深めながら、発達段階に応じて地球規模の問題とのつながりなどを認識していく中で、子供たちの環境問題に対する関心や意欲は高まり、自ずと広い視野で環境問題を捉えるようになります。

## 愛媛県環境教育研究推進事業

愛媛県では、学校における環境教育を充実させる手立てとして、平成20年度から「愛媛県環境教育研究推進事業」に取り組んでいます。

本事業では、

- ・身近な地域の優れた環境を守り続けようという意識や態度を育むこと
- ・産業廃棄物の排出抑制や減量化、資源の循環的な利用について理解を深めることを目的としています。令和5、6年度の研究推進校3校の主な取組を紹介します。

<今治市立富田小学校>

4年生・・・「織田ヶ浜博士になろう」

(織田ヶ浜・未来に残そうプロジェクト)

リーフレット作り、テーマごとの調べ学習  
織田ヶ浜発表会(他校と交流) など

地域や諸団体との連携を図り、様々な分野の外部人材の効果的な活用



織田ヶ浜での海辺の植物や生き物の観察(4年生)



頓田川での生き物の観察(3年生)

<伊予市立伊予中学校>

1年生・・・「地域を知る」

えひめ森林公園ESDプログラム  
(森林散策・防災食作り・環境講座)  
環境教育講演会 など

ESDやSDGsの視点に立った環境教育の展開



えひめ森林公園での校外学習(1年生)



野菜畑の支柱立て(2年生)

<西予市立石城小学校>

中学年・・・「クローズアップいわき」

水生生物の調査、デコイの設置  
テーマごとの課題解決学習と実践報告 など

地域の自然を生かし、地域や家庭と連携した体験活動の充実



山田大池での水生生物の学習(3、4年生)



ツルのデコイの設置(3、4年生)

3校とも、児童生徒が自分にできることを考え、実践しようとする姿が見られました。外部人材を積極的に活用し、地域の身近な自然、生活の場に密着した問題を取り上げて、体験活動を重視することで、大変充実した環境教育が展開されていました。

また、産業廃棄物処理施設の見学を通して、産業廃棄物の現状を知るとともに、持続可能な社会を目指した取組について理解を深めていました。

## 美しい環境を守るために

近年、「SDGs」「カーボンニュートラル」「循環型社会」など、環境に関する言葉をよく耳にするようになりました。環境保全に対する意識の高まりが一過性のものに終わらず、長く続くようにするためにも、学校における環境教育は重要な意味を持っていると思います。

各学校では、従来から、地域の清掃活動、給食の牛乳パック回収、アルミ缶回収、植物の栽培など環境を守る取組がされています。このような子供たちの生活の中の小さな活動を大切にしながら、機会を捉えて、「みんながしている小さな取組が、地域の、ひいては地球の環境を守ることへと広がっていくんだよ」と伝えていただくことで、「愛媛の美しい環境は、自分たちの手で守る！」という思いを持った子供たちがどんどん増えることを願っています。

